

第 5 回 名桜大学高大接続勉強会実施報告書

2021 年 9 月 21 日に、第 5 回 名桜大学高大接続勉強会をマイクロソフト teams を使ってオンラインで開催いたしました。本会は、沖縄県北部地区の高等学校と本学との連携による取組として 4 年目を迎えました。

本会の目的は、高等学校と大学の相互理解の場として、高校教育の現状や大学が目指す教育改革の方向性について意見交換を行い、高大接続の実質化に向けた具体的な方策を共に考えることです。

本学からは、副学長、学群長、各学部長等 11 人、高等学校からは 7 校の 8 名の進路指導部主任等が参加し、林優子副学長の司会により会が進められました。

主な内容は、本学から①名桜大学 高大接続プログラムの全体像、②初年次教育（教養演習、ライティング教育、英語教育 他）の取り組み、③入学後のピアラーニングについて説明を行いました。

高等学校からは、「高等学校における中高接続の課題及び高大接続の課題」について、現状報告がありました。

後半では、北部地区出身学生の入学時から入学後の学習成績状況等について、データを元に説明を行いました。続いて、北部地区出身学生を対象として実施した大学の入学前から入学後の学習や学生生活等に関するアンケート結果の中間報告を行いました。

今回の成果は、本学の年間を通した高大接続事業の全体像として高大接続プログラム（案）を提示することができたことです。情報交換の中では、「名桜大学への入学について、高校 3 年生での意識付けでは遅いので、出来れば 1、2 年生から名桜大学の教育目的・方法について意識付けとして集中的にアプローチした方が良いか、高校現場の意見を伺いたいと思います。昨年度は探究学習、総合的な問題解決型の学習が進んでおり、大学教育の方法等が活用できませんか。」という質問を投げかけました。「大学に進学したいが何をするか分からないという相談があるので、本校としてはニーズとしてあるので検討したいです。」という回答がありました。「北部の高校を対象に実験的な取り組みを進められるか、大学内で検討していきたいと思います。」という話し合いが行われ、今後の検討事項となりました。

下記の事後アンケートから、初年次教育の取組を伝えることができたこと、入学後の学生の様子の一面を伝えることができたことが良かったと思います。一方で、入試に対応する生徒の指導に戸惑っている様子も窺われました。入試に関しては、入試説明会後の意見交換の場が有効活用できるように工夫する必要があると思いました。

高等学校の先生方から「第 5 回名桜大学高大接続勉強会」の感想として以下のようなコメントが寄せられました。

- ① 入学後の生徒の状況を把握および分析して頂き、今後の生徒指導に活かすことができそうです。とても有意義な勉強会になりました。ありがとうございます。
- ② 北部地区学生の学力の現状や、生徒アンケートの分析など、具体的なデータの提示をありがとうございました。特にアンケート結果の資料では、生徒の生の声を知ることができて大変参考になりました。
- ③ 各校の連携の状況や、貴学の講座内容、学生の状況などがわかり、とても有益でした。
- ④ 名桜大学が 1 年生に行っている大学で学ぶ上で必要なことを教える授業に関して、知ることが出来て良かったです。大学生活に関する不安を解消できるだけでなく、より良い大学生活を送ることができるシステムだと感じました。
- ⑤ リモートは発言のタイミングなど難しいと感じました。対面でできると良いですね。
- ⑥ コロナの状況が落ち着いたら、低学年向けの説明会、出前講座、総合的な探求の連携法などについて、色々情報をいただけたらありがたいです。よろしくおねがいいたします。
- ⑦ 総合型入試に関して、どのようなプレゼンを大学が望んでいるのか知りたいです。指導する側としては、どのように指導していいかわからず担当する教諭によって合否が決まる気がします。プレゼン指導を担当する教員としてもつらい立場にあります。